

日本一小さな大学が卒業式！ 巣立つ2期生



卒業生代表の言葉の1コマ

ちなみに、背を向けて立っているのは、在校生(3期生)たち

会員企業様をはじめとし
1年間お世話になった講師の方々ほか
多くの方々に参列いただいた



↑中條学長の力強いメッセージが会場に。



↑中條学長直筆の卒業証書を、2期生全員に1人ずつ授与された。

2期生たちは堂々と巣立ってゆく…。は・た・し・て…、送りバントは…成功したのか？

震災発生後まだ2週間という落ち着いた中で、都内の教室で日本一、小さな卒業式が行われた。卒業発表では、2期生全員が1年間かけて創ってきたそれぞれの「事業創造」を、1人ずつ発表。発表の途中で思わず感極まって泣く男もいた。次に、卒業証書授与式では、中條高德学長が直々に1人ずつ手渡した。15名の卒業生が卒業したのである。

1年を振り返ってみると、2期生は常に1期生と比べられていた。「小粒」だの「地味」だの「無難路線」だの「スピーチ下手」だの…ひどい言われようだった。しかし、本当のところは、京都1週間修行や飛び込み営業など、1期生と比べても、はるかに高いハードルなのに、ちゃんと良い成績を残してくれている。(某事務局長談) アピールが下手なだけで、地道にこなしていたのだ。野球に例えるならば2番バッター。ちゃんと送りバントをしてくれていた。送りバント…別名:犠牲バントである。彼らは、2期生(2番バッター)の役割をまっとうしてくれた。

2期生の卒業発表



滝沢も晴れて国際人



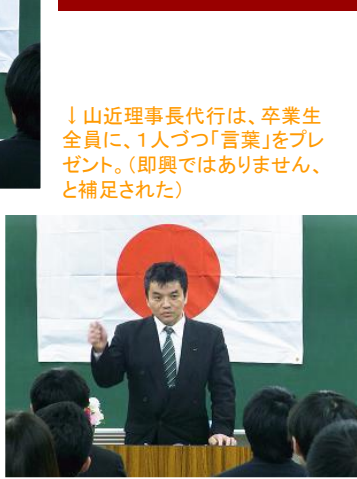
↑柳澤の涙のプレゼンは
実に美しかった…。



←いつも冷静な銭谷も、
この日は見事に吠えた。

↓1年間「事業創造」の
講師を務めていただいた
鳥越昇一郎先生。

卒業証書授与式、卒業生15名



↓山近理事長代行は、卒業生
全員に、1人ずつ「言葉」をプレ
ゼント。(即興ではありません、
と補足された)

→卒業証書を手にして
意気揚々。卒業証書は
1人500円(実費)回収
されるそうです。無料の
大学につき…。



あざっす！

卒業おめでとう！！



→1年間、幸福学
を教えていただいた、
尾崎真澄
理事。



俺たち小粒じゃないよ、忠実な2番打者だよ